

■ウィンドウズ オブ Wind (風の窓)

EWEC2010 (平成 22 年 4 月 20 日～23 日) 参加報告

日本風力発電協会 国際部会 石原 茂雄

電源開発株式会社

4月14日アイスランド南部で発生した火山噴火は、大量の火山灰の影響で翌15日18時より欧州各国の空港を封鎖へ追いやりました。私は15日昼成田発のフライトでフランクフルトに到着後、別件があり鉄道で宿泊地のボンへ移動しましたが、よもや、以降暫くの間火山噴火のニュースと付き合うことになるとは考えていませんでした。本稿では、本来の渡航目的であったGWEC(世界風力会議)主催会議は延期となってしまいました。運よくEWEC(欧州風力会議)会場にたどりつけた極く少数の欧州外からの参加者として、EWEC2010の概要を報告させていただきます。尚、今回は(社)日本風力発電協会の負担で派遣されたものですが、日本風力エネルギー協会にも少なからずEWEC2010参加予定者がおられ、残念なことにはほぼ全員が参加出来なかったこともあり、同協会協会誌企画編集ご担当者より執筆の依頼を受け寄稿させて頂く次第です。

1. 本来の渡航目的

(社)日本風力発電協会と日本風力エネルギー協会は連名でGWECに理事として加盟しています(国内においてはGWEC対応のため「GWEC運営委員会」を組織)。GWECの理事会は少なくとも年2回開催されますが、両協会では各理事会に何れかの協会から1名は派遣できるよう調整を行い、理事輩出団体としての責務を果たしております。ポーランド国ワルシャワ市にてEWEC2010開催期間中に開かれるはずであった今回の理事会については、両協会を代表して(社)日本風力発電協会国際部会員である私が派遣されたものです。

1-1. GWEC 理事会への参加

延期となってしまいました。GWEC理事会はEWEC2010開催前日の19日13時から18時で予定されていました。議題を以下に列記します。

- ①前回理事会議事録の承認
- ②事務局長報告書討議及び採決

- ・2009年度会計監査承認
- ・CDMプログラム改革案(標準化の推進など)
- ・バーチャルオフィス(インド及び中国オフィスの創設案など)
- ・シェールガス(ガス業界との戦略的提携)
- ・IRENA(国際再生可能エネルギー機関、「傍聴」の継続)
- ・ラテンアメリカコミッティ活動計画
- ・議長他の改選及び任期改訂など

上記の議題を踏まえ、日本からの発信情報として、会議の流れに応じ以下の各項目についての発言を機を見て行う旨、事前にGWEC運営委員会で議論が行われました。

- ・固定買取制度についての閣議決定内容
- ・国外の導入拡大状況や政策に関する情報発信の更なる強化を要望
- ・低周波騒音問題について、カナダ風力協会の関連論文などを参考にした見解書の発行を要望

(具体的なデータの提示や相対評価の導入を提案)

- ・IRENA及びWWEA(世界風力エネルギー協会)との協力関係構築の要請

1-2. GWEC Associations Group キックオフ会議

理事会と同じく延期となってしまいました。各国の風力発電団体が結集しながらも理事会のみではコミュニケーションの時間が足りないとの反省から、今回新たに開催が決まった会議です。22日10時から14時に開催すべく予定されていました。議題は以下の通りです。

- ・各協会の戦略やコミュニケーション政策及び2010年度活動計画についての近況確認
- ・特定課題に関する最善事例の共有化
(本件は後日送付された議事改訂版によると、「風車と健康-北米業界の対応」と題してカナダ風力発電協会からプレゼンテーションが予定されています)

- ・本会議の今後の推進内容について
- ・Global Wind Day 2010 について

2. EWEC2010

16 日のボンでの所用品を予定通り済ませ、17 日には空路でワルシャワに移動する行程でしたが、刻一刻と空港封鎖のニュースが度重なる期間延長を伝え、空路での移動断念を覚悟すると共に陸路を模索することになりました。ドイツ鉄道 (Deutsche Bahn、略称 DB) でワルシャワまで移動出来ることがわかり、19 日ならケルン及びベルリン経由で予約可能であったため、19 日の GWEC 理事会出席を諦め兎も角 EWEC2010 会場へ向かう選択です (既述のとおり GWEC 理事会は延期)。DB には予約申し込みが殺到していたようで、会場での雑談の中で聞いた話では、ルクセンブルグから普通席を利用した乗客は途中で混雑のため降車させられたとのことでした。

車中、EWEA (欧州風力協会) のスタッフと一緒になったり壮観な DB 沿線の風車群を眺めながら、11 時間かけて 19 日 22 時過ぎワルシャワに到着しました。EWEC2010 開催事務局からは、準備は前週の内に整い予定通り開催の旨連絡が入っており、EWEA 会長兼 GWEC 議長の Zervos 氏はベルギーから陸路 1300km を車で移動し現地入りされているとの由でした。

2-1. 概要

以下に 20 日以降の現地参加報告を記述します。但し、ウェブサイト¹からある程度の内容把握が可能ですので、アブストラクトを含むプログラムやスナップ写真等はこちらからご確認下さい。本稿では私が特にお伝えしたいと判断したテーマに絞って記述を進めて参ります。

EWEC2010 の登録参加者は 4,526 人 (18 日の Polish Day については 738 人)、又、出展予定は 250 社でしたが、ウェブサイトには以下の実績が報告されております。

- ・ 3,000 人を超える参加者
- ・ 220 社が出展
- ・ 予定セッションの 80% が開催
- ・ 全ての social event が開催
- ・ 1,400 人がオンラインビデオを視聴

セッションの中には電話回線参加の発表者

¹ <http://www.ewec2010.info/>

もいました。欧州域内からも移動が不自由だったことが伺われます。因みに、マルセイユ市で開催された EWEC2009 の参加者数は 7,500 人と報告されています。

国別の参加者は公表されていませんが、日本からの参加者は私のほかに 2~3 名いらっしゃったようです。一方、ブース参加者では日本ガイシ (株) 様の 2 名のみだったと思います。見渡した感じでは、欧州外からの参加者は殆ど見かけませんでした。

2-2. 2050 年までに EU 電力需要の 50% を風力で

当日プレスリリース²されておりますが、開催初日の 4 月 20 日に Zervos 会長から標記の発表が行われました。EU 加盟諸国における風力発電の全電力需要に占める比率は、2009 年末実績で 4.8%³であり、更なる導入量拡大に向けての大きな目標が設定されました。これは、G8 や EU が 2050 年までに温室効果ガスの 80% 削減を約束したことや、そのためには電源の殆どを再生可能エネルギーに委ねなければならないとの EWEA の提言が背景にあります。Zervos 氏は宣言の中で、再生可能エネルギーで電力需要を全て賄えると発言しています。

EWEA CEO の Kjaer 氏は付言として、欧州間の送電線網などの周辺設備の必要な変更と市場の形成が実現すれば、風力資源は潤沢で産業は準備が出来ていることから、標記は達成可能としています。

その後 14 時より、”VISION PANEL: WIND POWER IN EUROPE: 50% BY 2050?” と題したパネルディスカッションが開催されました。パネラーは EWEA VP の Rave 氏、GWEC 事務総長の Sawyer 氏、Garrad Hassan CEO の Garrad 氏及び EWEA CEO の Kjaer 氏で、司会は New Energy 編集者の May 氏。以下、ややくだけますが私が聴講して書き留めていたメモからキーワードを転記します。全体として放談的になってしまい司会者も収拾に苦労しておりました。40 年先の将来を議論する訳ですから止むを得ないところでしょう。

- ・ 東欧には豊富な風力資源が潜在

²

[http://www.ewea.org/index.php?id=60&no_cache=1&tx_ttnews\[tt_news\]=1830&tx_ttnews\[backPid\]=259&cHash=c5c4f328b39b2d6b7cb37851ec8dfb73](http://www.ewea.org/index.php?id=60&no_cache=1&tx_ttnews[tt_news]=1830&tx_ttnews[backPid]=259&cHash=c5c4f328b39b2d6b7cb37851ec8dfb73)

³ GLOBAL WIND 2009 REPORT P34

(22日には EMERGING EUROPEAN MARKETS とのセッションが開催された、参加パネラーはポーランド、ブルガリア及びルーマニア)

- ・送電網の完備が前提 (super grid, offshore grid, smart grid)
- ・40年後のEU構成国(ロシアやトルコの存在)
- ・域内外の電力輸入及び輸出の可能性
- ・東南アジア風車供給者の欧州進出
- ・CCSや原子力発電のカウント
- ・中央集中型と分散型

2-3. 展示ブース

220社もの出展が有りましたが、訪問者が絶えないところと閑散としているところの差があったように見受けました。有るメーカーは、1日に何回も映像を使って自社技術をプレゼンテーションしていて常に活気が有りましたし、一方で、地元のアルバイトに任せっきりのメーカーも有りました(但し、交通事情で間に合わなかった可能性も勿論有ります)。事業者のブースも傾向は同様で、ブースの出展による費用対効果の量化が難しいとの背景から察すれば、企業の体力やスタンスが伺えるものでした。また、洋上風力で注目される某社のブースが無いことに、意外な驚きを見せる声も聞こえておりました。

Social event では日替わりで、Hansen 社による地ビール提供、LM Wind Power 社による Reception party、GL Garrad Hassan 社による Launch party、及び Ing Bank 社による Conference reception が予定通り開催され、ビールに目が無い私は漏れなく参加させて頂きましたが(銘柄は忘れましたがポーランドの地ビールは美味しく最高でした。又、余談ながら、市中でのビールも値段が安く買って帰りたいほどでした...)、昼間とは雰囲気を変えて、その日の緊張をほぐしつつコミュニケーションをとることが出来ました。特に、今回は殆ど唯一の東洋人では有りながらも、こちらから積極的に切り出しさえすれば会話はそこそこ進みました。皆苦勞して会場に辿り着いたという意味では、同志的に話題を共有化出来た特殊事情も手伝ったのでしょう。私も EWEC2010 の参加は本来付随的でしたので、展示物を眺めるだけならともかく、人的関係を持つとすれば相応の工夫が必要なはずでしたから。

Exhibition Catalogue を持ち帰って居りますのでご興味に応じ閲覧下さい。日本風力発電協会事務所に保管してあります。

2-4. 各セッション

ウェブサイトでご確認頂けますが、初日を除いて殆どのパネルディスカッションはキャンセルとなってしまいました。各時間帯で3~4のセッションが同時開催されており、可能な限りのセッションを視聴しましたが、個人的に印象が強かったのは日本に居るからでしょうか、”Strategies to increase social acceptance” でした。風力先進地であるドイツやデンマークからの発表者による、地元同意取り付けの苦勞話は何処も例外が無いということを示しておりました。また、随所で”repowering” や”decommissioning” とのキーワードが登場してきており、予定事業期間の満了が視野に入らる中で、プロジェクト継続のオプションについての具体的な動きが出てきたということでしょう。わが国にとっても注視すべき傾向だと思います。

各発表者がセッションで用いたプレゼンテーション資料は参加者に限りダウンロード可能で、協会に保管してあります。適宜お問い合わせ下さい。

2-5. 今回出会った人々(思いつくままに... 全員ではありませんが)

2-5-1. EWEA 及び GWEC

EWEA の専任スタッフは40人を数えるとのこと。お話ができたスタッフを簡単に紹介します。ゼルボス氏の強力なリーダーシップの下、彼らが会場を縦横無尽に活躍している光景に力強さを感じつつ、日本も負けてはいられないなと思いました。

Mr. Zervos: アテネ工科大学教授から PPC (ギリシャ最大の電力会社) の CEO へ転進されます。基調講演後の壇上でのインタビューで、「自分のミッションは、同社の5%未満の再生可能エネルギー依存率を15%まで上げるべく内部から改革を行うことにある」と発言されておられました。又、質問者へ「風力発電の発電コストが安価だという事実が認識されなければならぬ」と回答されておられるあたりは、同氏の自信に溢れる存在感を実感させられる瞬間で有りました。GWEC 理事会でも議長後任問題が議論される予定でしたが、恐らく難航するのではないのでしょうか。お忙しく

中々コンタクト出来ませんでした。立ち話でご挨拶したところ、「あなたの E メールは読んでいますよ」とのお言葉を頂きました、社交辞令でしょうけれども嬉しかったです。

Mr. Kajaer : 当然ながら名前は存じ上げておりましたが、面会は今回が初めてでした。比較的若手ながら大組織をマネージされており、発言にも自信を感じさせます。「どうやって来たのですか？」との切り出しでお話できました。

Mr. Douglas : 相変わらずの好青年でした。立ち居振る舞いに少し貫禄が出てきたようです。

Mr. Sawyer : (Zervos 氏の代行で) RE2010 への招聘を直接打診し、来日頂ける事になりました。橋渡しに貢献できたとしたら何よりも思います。

Ms. Rodrigues : ポルトガル人スタッフですが、遠路頑張った一人です。

Mr. Moccia : イタリア人スタッフです。代理含め各セッションの司会で忙しそうでした。

Ms. Azau : 行きの列車の中で一緒になったコミュニケーション担当、私が隣り合わせになったドイツ人の方に風車の話をしているのが聞こえて、声をかけるタイミングを狙っていたとのこと。これがご縁でEWEA機関誌のインタビューを受けることに...

Dr. Fichaux : 政策担当の物静かな青年。日本の動向に関心を持っているようでした。

Mr. Gruet : フランス人スタッフ、フランス風力市場も有望とのことです。

Mr. Scola : スペイン人スタッフ、Global Wind Day の責任者です。

Mr. Bickley : タイ人の血が入っているせいか、見た目は日本人と間違ってしまう。ウェブサイトに掲載される写真は彼の撮影によるもので、行きの車中で窓の外に風車が見え出すと一眼レフをフル稼働しておりました。

2-5-2. その他の方々

Dr. Edge, Renewable UK (「BWEA : 英国風力発電協会」改め) : 2005 年の GWEC 設立記念シンポジウムに来日して頂いた、英国洋上風力発電の第一人者。今回もパネラーその他に大活躍されておられました。少し恰幅が良くなりましたでしょうか、日本の思い出話に盛り上がりました。

Mr. Hulle, XP Wind : 同じく、2005 年の GWEC 設立記念シンポジウムで来日して頂いた風力技術専門家。お元気そうでした。

Mr. Miner, AWEA : ニースからレンタカーを駆って会場入りし、Conference Dinner の余興で急遽行われた航空機を含まず最も遠路を移動した参加者の表彰式でトップになりました。

Mr. Donaghy, BLUE COMPANY : 帰りの列車の中でワルシャワから 4 時間よもやま話を続けたニュージーランド出身の洋上風力関係者。最後は話すことがなくなってしまうしましたが、良く付き合ってくれました。

Ms. He, Statoil : 中国系オランダ人の方。会場内のあちらこちらで積極的に質問をされている姿が印象的でした。初日から声をかけて頂き、翌日は夕食をご一緒することになりました。

中西さんと平井さん、日本ガイシ(株)様 : 今回はさすがに日本人は私だけか、と覚悟しておりましたが、お二人が会場におられ思わず日本語をはなすことが出来ました。

2-6. 持ち帰った資料類

以下の資料を協会に保管しております。適宜ご参照下さい。

- GLOBAL WIND 2009 REPORT
- ewec2010 Event Guide
- ewec2010 Exhibition Catalogue
- ewec2010 LIST OF PRE-REGISTERED PARTICIPANTS
- ewec2010 Scientific Proceedings
- Pure Power: Wind energy targets for 2020 and 2030
- Wind Energy and Electricity Prices
- RE-thinking 2050: A 100% Renewable Energy Vision for the European Union
- TP Wind: The Way Forward
- Five reasons to join EWEA
- Harness the wind to tackle climate change
- Wind Energy Factsheets
- A breath of fresh air: EWEA Annual Report 2009
- WINDPOWER 2010 Dallas, Texas: Registration Details
- CHINA WINDPOWER 2010
- GRIDS2010 leaflet

- EWEA 2011 leaflet
- OFFSHORE 2011 leaflet
- WIND DIRECTIONS April 2010

2-7. 最後に

22日のConference Dinnerが開催されたワルシャワ工科大学の会場とバレーのスナップをお楽しみ下さい。カラーの方が良いのですが... Mr. Bickley から送って貰ったものです。

